

教育センターだより

第47号 令和2年9月14日発行

日野市立教育センター 〒191-0042 東京都日野市程久保 550 番地 電話 042-592-0505 Fax 042-592-1148 午前8時30分から午後5時15分 休館日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始	わかば教室 〒191-0042 東京都日野市程久保 550 番地 電話 042-592-0863 Fax 042-592-1148 午前9時から午後4時 休館日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始
--	---

教育センターだより第47号の発刊にあたって

日野市立教育センター所長 正 留 久 巳

日野市では、第3次日野市学校教育基本構想がスタートし2年になります。学校現場に求められているのは、一律一斉の指導から脱却し、一人一人をとらえたその子に望ましい指導をし、教材を工夫し、学習活動を通して子供たちが、学び方を身につけられる授業をつくっていかうこととあります。子供たちの「なぜだろう。どうしてだろう。」の素朴な課題意識を大切にこそ主体的な学びの創造につながります。本教育センターも、基本構想の具現化に向け、「授業力の向上」と「現場に役立つ教育センター」を目標に本年度も事業を進めています。新型コロナウイルスによる社会の変化の中、子供たちの未来を確かなものにするのは教育であり、我々大人の責務です。やるべきことをやる。こんな時だからこそ、心を広くし、子供たちを第一に考えた学校や社会でありたいものです。

I 研修部

若手教員育成研修

教職員研修係

(1) 1年次若手教員 (小学校 27 名、中学校 12 名 計 39 名)

年 3 回、1 年次若手教員のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行います。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応で、4 月から臨時休業期間が 2 か月間続き、授業の再開が 6 月 15 日となりました。その関係で 1 回目の授業観察も 7 月に集中して実施しました。例年とは違い、1 年次の若手教員が全員集まる研修会が 6 月までなく、仲間同士の連絡も取りにくい中、自校での研修を深め、頑張っている姿が見られました。

授業観察では、教材に対する理解が十分にあるか、説明や発問が的確で分かりやすいか、板書が丁寧で、計画的なものであるか、児童・生徒と良好なコミュニケーションがとれているかなどを視点として、担当所員がよかった点や課題を示し、次の授業に向け、改善策を話し合いながら若手教員の指導にあたりました。



研修の様子

(2) 2 年次、3 年次若手教員

(2 年次 小学校 25 名、中学校 19 名 計 44 名)

(3 年次 小学校 16 名、中学校 17 名 計 33 名)

年 1 回、2 年次及び 3 年次の若手教員のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行います。今年度は主に 10 月から 11 月頃に実施していく予定です。

II 調査研究部

調査研究部では、「理科教育推進」及び「郷土教育推進」の研究を行っています。

1 理科教育推進の研究(理科教育推進研究委員会)

教科等教育係

理科教育推進研究委員会では、日々の授業を「ひのっ子が主体となる理科授業」とするための調査や研究に、今年度も取り組んでいます。昨年度は、市内百草地区の露頭を活用した取り組みについて紹介しましたが、今年度は、平山地区の露頭を活用した指導計画を作成しています。

(1) 日野を教材とするわけ

開発の進んだ都市部において、本単元の教材となる露頭は身近に存在しにくく、教科書や映像教材に頼ることが多くなっています。そこで、改めて日野市内を調査し、昨年度は百草地区、今年度は平山地区の露頭を新たな教材として開拓し、より実感を伴った学習とすべく日野バージョンの指導計画を作成してきました。

(2) 平山地区で地層の観察できる露頭

多摩丘陵は、海底で堆積した上総層群（かずさそうぐん）の地層が隆起してできた土地を、浅川が削り残したところです。ですから、ここに見られる露頭では日野の土台の地層が観察できます。宗印寺脇の登り道には、百草地区同様に小規模ながら点在する露頭で上総層群の地層を観察することができます。



(3) 日野を取り入れた指導計画

① 土地をつくっているもの

資料 1 「日野の大きな露頭」の写真を見て考える（昭和 63 年小学校理科教科書下、東京書籍による）

資料 2 「七生丘陵の露頭をたどる」平山地区の露頭の観察

資料 3 「ヒノクジラとアケボノゾウ」から日野の化石について知る

② 地層のでき方

＜流れる水の働きでできた地層＞

資料 4 「日野の成り立ち」を視聴する

＜火山のはたらきでできた地層＞

資料 6 「川辺堀之内の国道工事現場の関東ローム層」

雲仙普賢岳の火山灰と海鳴りの丘（上総層群）の砂の比較（実体顕微鏡観察）

③ 火山活動や地震による土地の変化

資料 7 「火山噴火で作られた中禅寺湖と華嚴の滝」…日光移動教室と関連付けて考える。

※ 資料 1～7 は、所員の作成によるプレゼンテーション資料

このように日野市の資料を活用し、実際に体験することで、学習を自分たちの生活と結びつけることができると考えました。

2 郷土教育推進の研究（郷土教育推進研究委員会）

ふるさと教育係

郷土教育推進研究委員会では、令和2年度の研究主題を「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとする児童の育成 ～日野市の郷土関係機関や人材との連携を通して～」と掲げ取り組んでいます。

（1）各グループの研究テーマと方法

研究方法として全体を4グループに分け、グループ毎にテーマを設け、研究を進めています。各グループの研究テーマは、以下のとおりです。

- ・Aグループ：「郷土への愛着を高める」
 - ・Bグループ：「主体的な学びから郷土にふれ、郷土を愛する子供たちの育成」
 - ・Cグループ：『新しい見方・考え方』に基づいた、郷土教育の推進」
 - ・Dグループ：「郷土への関心、理解を深め、郷土への愛着を育む教材の開発を目指して」
- ～4つのグループが授業実践、教材づくり等を通じて実証的に研究を進めています。

（2）1課4館との活動（生涯学習課、図書館、中央公民館、郷土資料館、新選組のふるさと歴史館）

令和元年には、七生の冊子を中心に市民との「まち歩き」を行いました。今年はコロナ禍で困難になりました。その中で、1課4館が総力を挙げ、日野の自然・文化財をテーマ毎に「動画」「パワーポイント」等を駆使して学校へ配信しています。

8月の段階で16テーマがアップされ、今後、先生方の感想や意見を受けながら、より良いものに仕上げていく予定です。

（3）『歩こう 調べよう ふるさと七生』；第3版へ向けて

令和3年度の新3年生へ配布する七生の冊子の見直しを進めています。

8月中に校正を行い、11月に印刷業者へ入稿し、令和3年3月に印刷を完了する予定です。変更点として、西暦(年号)の表記を小学校の教科書に合わせて統一を図ります。

〔平山陸稲（おかぼ）の栽培体験〕

～教育センター内でコンテナボックスでの栽培を行っています。



さあ！田植えだ 6月17日



「ハウネンエビ」で雑草
の駆除を 8月6日



稲穂が出た！ 8月14日

Ⅲ 相談部

学校生活相談係「わかば教室」

今年度のわかば教室は、教育センター所員 3 名、カウンセラー 2 名、指導員 5 名、登校支援員 1 名のスタッフで業務に当たっています。

1 学校生活相談

わかば教室では、児童・生徒の長期欠席に関しての支援・助言を行っています。通室する児童・生徒が安定した心理状況で過ごせる居場所であり、学びを通して好ましい人間関係や社会性、自立心の育成を目指しています。

- (1) 相談活動→学校生活上の問題や長期欠席に関する相談、「わかば教室」に通室している児童・生徒への個別面談を実施しています。カウンセラーが定期的に行うカウンセリングは、子供たちの不安を和らげるよう行っています。また、中学 3 年生については、上級学校の選択に関する進路指導の相談も行っています。
- (2) 「わかば教室」通室児童・生徒への支援→安心して過ごせる学びの場(居場所)づくりのために、児童・生徒に応じた学習活動の支援を通して、社会的自立や基礎学力の定着を図っています。また今年度は、小学生は週 2 時間、中学生は週 3 時間、学習支援（通称「わかデミー」）の時間を設定し、自分で課題を設定して一人一人の学習課題に応じた学習を行っています。
- (3) 登校支援→学校訪問（年 1 回以上）、学校及び保護者との相談（随時）を実施しています。今年度は 8 月に前期の学校訪問を実施しました。
- (4) 学校・家庭・地域との連携→毎月の通室状況報告の送付、保護者会、わかば通信の発行、子供家庭支援センターとの連絡会を実施しました。

2 「わかば教室」の一日

朝の会で始まり、学習タイム、わかばタイム（曜日毎に、作文・スポーツ・音楽・栽培・図工を実施）、学習支援の時間を組んで実施し、帰りの会で終わります。週 1 回はスタッフ全員の話し合いの時間を設け、児童・生徒一人一人の状況に応じた個別計画のもと指導・支援に当たっています。ふれあいを大切に、特に昼休みは、毎日スポーツを元気に楽しんでいます。

3 わかば教室の行事

今年度は 7 月にスポーツ大会、8 月には教育センターが実施する避難訓練に参加しました。また、郷土資料館と連携して平山陸稲の栽培などの体験学習を行いました。こうした行事を通して、生き物に対する興味や関心を高めるとともに、命の大切さの気づきの学習場面となりました。



避難訓練の様子

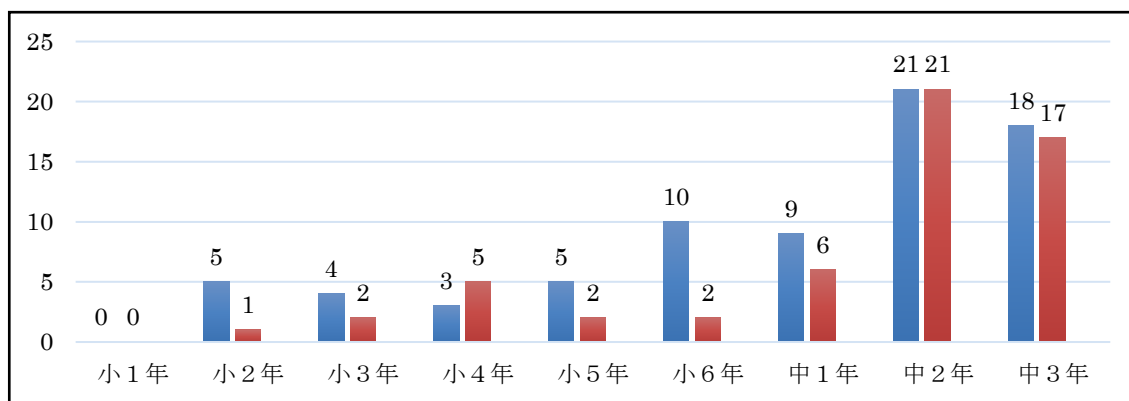
4 児童・生徒への学習支援「e ラーニング」

わかば教室に通室している児童・生徒に対して、わかば教室の学習活動時間を利用し、児童・生徒の学習支援や学校復帰への援助を図っています。学習時間は火曜日と木曜日に設定されていて、教育センター 2 階のパソコン室で行われています。

5 7月分出席状況調査集計より

登校支援コーディネーター

(1) 令和2年7月末現在30日以上欠席した児童生徒数（グラフ参照）



（各学年の左側：男子、右側：女子）

① 継続状況

- ・児童 39 名中 28 名（約 71%）が昨年度より継続
- ・生徒 92 名中 84 名（約 91%）が昨年度より継続
- ・中学 1 年生 15 名中 15 名が小学校より継続

② 昨年度同時期との比較

- ・令和元年度 7 月時点 児童 46 名 生徒 116 名 児童生徒合計 162 名
- ・令和 2 年度 7 月時点 児童 39 名 生徒 92 名 児童生徒合計 131 名

※昨年度同時期より児童は 7 名少なく、生徒は 24 名少ない。小中合計で 31 名少ない。

※昨年度同時期との比較で 31 名少ないのは、新型コロナ感染防止のための休校による 1 学期の授業日数の少なさ及び学校再開時の緩やかな登校期間を設けたこと等との関連も考えられる。

(2) 令和2年7月分出席状況調査に記載されている現認者（直接目視した人）

校内：校長、副校長、主幹教諭、担任、養護教諭、SC、部活動顧問、ステップ教室教員・専門員

校外：わかば教室職員、エール職員（SSW、プレイセラピー）、野球コーチ、書道教室の先生

※長期欠席の状況が長くなるにしたがって現認が難しくなっていく傾向がある。お互いに顔を合わせながら話ができる関係づくりが大切。

(3) あらためて、『早寝、早起き、朝ご飯』のすすめ

7 月分出席状況調査「家庭での様子」記述欄から

- ・昼夜逆転の状況がひどくなっている。ユーチューブやゲームがやめられない。

（小学生男子）

- ・昼夜逆転。遅くまでゲームや YouTube をしているとのこと。朝、昼とほとんど寝ていてご飯もあまりたべていない様子。（中学生女子）